

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第五回豊島区教育ビジョン検討委員会幼児教育部会 (幼児教育のあり方検討委員会《第 2 次》)
事務局(担当課)		庶務課
開 催 日 時		令和 6 年 9 月 27 日(金) 16 時 30 分～17 時 35 分
開催場		豊島区役所本庁舎 8 階 教育委員会室
議 題		「豊島区教育ビジョン検討委員会幼児教育部会 最終報告書案」について
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0 人 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員 (敬称略)	田代 幸代 箕輪 潤子 角本 史夫 山口 範子
	その他	教育部長、障害福祉サービス担当課長、子育て支援課長、子ども家庭支援センター所長、保育支援担当課長、庶務課長、学務課長、指導課長、教育センター所長、区立小学校長、区立幼稚園長
	事務局	教育施策推進担当課長
欠席		子ども若者課長、保育課長、保育政策担当課長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
事務局	挨拶 (議事の説明)
田代部会長	委員の皆様方、ご意見などございましたら、ご発言をお願いいたします。 これまでの部会でずっと検討してきた内容を整理して、きちんと位置づけていただけたように思います。C 委員よろしければ感想なども含めて総括的にご意見をお願いいたします。
C 委員	まず 14 ページの幼児教育の質の向上において、私立幼稚園保育園の支援(通年)の目的を読むと、その現場の幼児教育アドバイザー(臨床心理士等)というように臨床心理士が先に来ていて、その後現場の園児の様子を確認し教育内容の相談に応じると書かれています。 そして「状況に応じて保護者の同席可とする」というところと 2 段落目に記載のある「また特別な支援の必要な障害児含む外国籍の子に関する教育相談にも応じる」というところから包括的に見れば、全ての子供が対象という意味はあると思いますが、どちらかというと配慮が必要なお子さんのことが主に書かれているので、配慮の必要な方中心という印象に読めてしまう部分があります。 私としては、まず全ての子供にとっての幼児教育ということが大事であると思っていて、そこに相談や研修、公開保育などそういう幼児教育の内容がどうあるべきかを考える必要があると思います。 こうした機能があってその中に支援の必要なお子さんや外国籍のお子さんなど特別な配慮が必要なお子さんに関しての相談がプラスで含まれてくるといったふうに書いていただけると良いと思います。 これから支援の必要な子や外国籍の子が増えてくるところで、逆に外国籍のお子さんが増えてきている豊島区では、外国籍の子を含む全てのお子さんがインクルーシブに教育が行われて、そして小学校に繋がっていくという取組ができれば全国的にも先行事例にもなりうると思います。 研究の仕方や発信の仕方によっては豊島区が先陣を切っているいろんなことを発信していくことができるので先行事例としてアピールできるのではないかと思います。 そう考えると、配慮が必要なお子さんに関してのことはもちろん大事ですが、まずベースとして幼児教育があつてのというところをもう一度検討していただき記載に入れて

	いただきたいと思います。 小学校への円滑な接続の記載もありますが、小学校への円滑な接続が、どちらかというと強くなっているかなと思います。質の高い幼児教育が積み重なって、それがあつての接続だと思うので、そういった幼児教育の質の向上というところについての書き方をもう少し厚くしていただけるとありがたいと思います。 また、それが区立幼稚園に期待される役割においても、反映されるとより良くなっていくのではと思っております。 以上です。
田代部会長	配慮が必要なお子さんに傾いている内容になっているかと思います。その点加筆は可能でしょうか？
事務局	14 ページの 1 を見ますとメインが特別な支援の子や外国籍な子に読まれてしまうところがあると思います。前回も幼児教育の質の向上の方針のところ幼児教育の質を高める研修などを記載すると良いといったご意見もいただいたと思っております。 前回のご意見との関連や繋がりも含めて、区立幼稚園の期待される役割にも繋がるような形で修正、検討していきたいと思います。
田代部会長	今の部分に関して私立幼稚園の立場から A 委員いかがですか。
A 委員	幼児教育アドバイザーはすごくありがたいと思っています。 また、支援の必要な子を見ていただいて、幼稚園の中でどういう生活を送るかアドバイスをいただくことはとても嬉しいです。 ただ、C 先生がおっしゃってくださいましたように、子どもとしては幼児教育アドバイザーも大切ですが、田代先生や C 先生、あるいは他の先生方に幼稚園の保育を見ていただいて、保育に対してのアドバイスをいただくと、それが質の向上に繋がり支援の必要なお子さんに対して質の高い保育を反映していくことができるというふうに考えています。 子供同士がどうやって人間関係を作っていくのか、私達と子供がどういう関わりをしていくのかということに対してアドバイスをいただける幼児教育アドバイザーを置いていただけるとすごくありがたいと思います。 区内の幼稚園や保育園も含めて例えば公開保育をやるのであれば、手を挙げさせていただきますので、そういったことも含めて区内の皆さんで手を取り合って幼児教育の質が向上していけば嬉しいなというふうに考えています。
田代部会長	貴重なご意見ありがとうございます。 保育園の立場から B 委員いかがですか。
B 委員	大変わかりやすくまとめていただき幼児教育センターの実現が少し見えてくるよう

	に思いました。 保育園は 0 歳から 6 学年を運営している場所ですが、幼児教育アドバイザーや臨床心理士だけでなく幅広く専門医がいるといいという理想があります。 例えば、小学校に向けて豊島区の文化芸術を特化した部分で、絵画や音楽など、そういった部分の専門員がいる日があったり、情緒の面でも環境が優れていたりこの教育センターがそのような場所になるとすごく素敵だなというふうに思います。 そうした小学校に繋がっていったり、体験できる場所があったり、自然と触れ合う場所があったりなど、そしてそこに専門医がいることで幼稚園の先生や保育園の先生たちも学びの場になると、とても良いということを感じました。
田代部会長	幼児教育の質の向上というところでいくつかご意見いただきましたが、このようなことも考えていただけるとありがたいなと思います。
事務局	これから幼児教育センターとしてアドバイザーがどういうことをやっていこうかという時にぜひ、参考にさせていただきたいと思います。
田代部会長	C 委員からも出ておりましたが、質の高い幼児教育を積み重ねていくことで小学校への円滑な接続を進めていきたいということで、ここに書かれている幼保小の連携については今後ぜひ積極的に推進していただきたいと考えております。 最終報告案に実施方法などを記載していただいておりますけれども、具体的な実施方法などについて何かご意見がありましたらお願いしたいのですがいかがでしょうか。小学校のお立場から区立小学校長いかがでしょうか。
区立小学校長	小学校への円滑な接続について、これはとてもいいことであると思います。 ローマ数字の 1(年長の園児と小学校児童との交流)の部分については既に各学校でやっていることが多いですね。各校長はこういった取組をやっているもので、さらに充実するのではないかと思います。 小学校への円滑な接続の内容について全て見ましたが、どこがこの事業を主催し具体的にどのように実施していくのかということがあります。例えば1番の 1 は学校主催でやらなければいけないこと、2 番については、最初は教育委員会が入ってきてお膳立てをする形でやるのがいいのだろうというところがあります。 3 番については、学校主催かなと思いますが、日にちを決めるところでは、年度末に決めないと次の年度に使えないなのでそう考えていくと、本当にやるのであれば、早めに決めなければいけないなと思います。その後は学校主催となるので学校に任せればいいのかと思います。 4 つ目については研修という形になるのであれば、主催は教育委員会がいいのではないかとこのところでどこがどう主催するのかによって大きく変わってくるだろうなと

	思います。とにかく小学校の校長が幼稚園や保育園の現状を知らないところが多々あると思いますので、まず校長がそれを知るために幼稚園や保育園に行って現状を見て管理者である校長がそれをどう判断するかというところでは、そういう機会があるといいなと思います。 だからこのイ(小学校への円滑な接続)の方の部分については全てとてもいいことなのだろうと感じています。ただ、実際やるにあたって、どこまで配慮ができるか。できる方法は何なのかというところは、詰めておかないといけないのではないかと感じました。
田代部会長	非常に具体的なご意見をいただきまして、ここに書いてあることが書いてあるだけで終わるのではなく実現していくための実際のご意見をいただけたように思います。この点についてはいかがでしょうか？
事務局	教育委員会と学校との分担というところでは、これから考えていきたいと思っておりますが、学校の方でもこれまでなかった業務的が増えてしまったりするなど負担として取られてしまうことも考えられますので、そのあたりは校長先生のご意見等も踏まえながら、役割分担を決定していきたいと思っております。
田代部会長	アプローチスタートカリキュラム研修などは C 委員がご担当されているので、先生のご意見もいただければと思います。
C 委員	先日、アプローチスタートカリキュラム研修を行わせていただきました。 小学校の先生、保育士、幼稚園の先生に参加していただきました。年々先生方の話し合いが活発になっていっているのを感じます。 以前は幼稚園や保育園の先生から、小学校の先生に何をしたらいいですかみたいな質問が多かったのですが、今年に関してはもう少し具体的にどんな活動や授業をしていますかというような話をさせていただきました。 その中でこんなことしていますとか、こんなふうに考えていますなど、取り組んでいる活動や考え方について活発にお互い話し合うことができました。 後になって教育委員会から報告をいただいたのですが、以前は話し合って終わっていたのが、園の先生から小学校の先生に、運動会に行っていていいですかとか連絡とっていいですか、交流できますかというようなお話も出てきています。 小学校の先生も保育園、幼稚園の先生方もどのように接続できるのか、していったらいいのかというところを具体的に考えてくださっているようなので、ぜひ先生方のその思いというのを繋げていくことによって子供たちの学びが繋がっていくといいなとい

	うふうに感じおります。 そういった機会を開催していただいている豊島区教育委員会や保育課の皆さんに本当に感謝しておりますし、またぜひこのような形で繋げていただけたらと思っております。 よろしくお願いします。
田代部会長	継続して実施をしていくということがとても大事ということがわかるご意見でした。 ではここまで幼児教育の質や小学校への接続の話を中心にしていまいりましたけれどもこの教育センターについてご意見がありますでしょうか。 特に幼児教育アドバイザーへの保育を見ての指導や実際の保育についてのアドバイスというお話も出ていました。それぞれの幼児教育施設にとっても心強い存在になればいいなと思っております。 幼児教育アドバイザーの方からどのようなサポートが得られれば心強いかなど、ご意見があればここで聞かせいただければと思います。
A 委員	幼稚園では、その友達関係や保育者とお子さんとの人間関係が出来上がっているのですごく安定している日もありますしすごく気になる日もあります。 実は3歳児で入園前から支援が必要だというふうに考えられていて、子ども支援センターへずっと通っているお子さんがいらっしゃいます。 その保護者の方と話をしたのですが、子ども支援センターで週に1回毎週木曜日に、幼稚園や保育園に在籍しているお子さんを少人数で集団保育をしてそこでの関わりを幼稚園や保育園にフィードバックし合うことを考えているという話があって、週に1回毎週木曜日幼稚園休まなければならないが、どうでしょうとご相談を受けたので、その子にとっての世界が広がり、さらに違う集団に入って、その様子を見た状況を今度幼稚園にフィードバックしていただくということもすごく大事なことになるので、私はいいいのではないかと思いますよって話をしました。 そういうお子さんたちが何か民間の施設で、例えば支援が必要なお子さんが行っているところはあるのですがうちの子供も何ヶ所か行っています。 ただ、その場合その施設でどういう状況でどのような保育がなされているのかこちらには全く見えてこないのです。 幼稚園の方は向こうから見学にいらっしゃって、幼稚園の姿を見て変えられますが、お互いのフィードバックがないので、その園の様子もフィードバックしていただけるととても助かります。それはすごく難しいとは思いますが、そういうことも知り合えると、私達もすごく勉強になるなというふうには考えています。
田代部会長	子供の側から見たときに、やはり幼稚園のような集団の中で育つということも大事

	ですし、集団の中だと気が散ったり、一つのことをやってもまた違う情報に翻弄されたりということもあります。その子の苦手なところや得意なところを伸ばすなど少人数や一对一の療育的なケアも必要だったりします。1 人のお子さんが育っていくときに、そうしたいろいろな場がやっぱり成長のために大事ということで、そういうところを繋いでいくような役割も担っていただけたらいいかなというご意見だと受けとめました。 B 委員はいかがでしょうか。
B 委員	小学校との連携がこの 2 年ぐらいですごく進んでいて、西巢鴨小学校とは昨年度、5 年生と年長と一緒に交流させていただいて入学したときに、6 年生と 1 年生という関係になれるように取り組みをしました。 保護者の方も年長さんたちもその日からぐっと変わって小学校に向かうぞっていうそういう不安なところから前向きにすごく変わりました。 そういったこともあり 1 年生に限らず、いろいろな学年とも触れ合っていけるといいのではないかというのは感じました。 それと保育園の先生や年長の先生たちが学校に入学してからのことを気にかけてはいますが、遠慮している部分もありまして、公開授業に行っていないのでしょうかというようなこともありますので、その後の繋がりも深めていけるといいなと思っております。
田代部会長	高橋委員、いかがでしょうか。
区立幼稚園長	まず 17 ページと 18 ページにつきましては、区立幼稚園に対する期待される役割ということで私達がこれまでにやってきたことや区の方針を明確にさせていただいたこと、モデル実施の検討についても具体的なこれからのことを示していただいてありがとうございます。 また、15 ページの方には区立幼稚園と幼児教育センターとの連携について書いてありますが、実際は公立幼稚園の正規の職員が 3 名です。園長と担任 2 人が正規なのでこのあたりが入れてはいただいたもののこの役割を果たすのに幼児教育センター機能と区立幼稚園の関係性をもう少し細かく考えていきたいと思いました。 先ほど、区立小学校長がおっしゃいましたが、実際誰がどうやるのかというところにも絡みますが、公立幼稚園の人員を考えると、ここがもう少ししっかりしたものになっていくことでこの報告については大まかとは思いますがいいのではないかと思います。

田代部会長	幼児教育センターにどのような幼児教育アドバイザーがいたらいいかということが、かなりいろいろ出てきていますが、現段階で区としてはどのような幼児教育アドバイザーが何人ぐらいとかどのような人を設置するかなど、もし何か考えがあれば教えていただければと思います。
事務局	他区のアドバイザーや他区の幼児教育センター、他市の幼児教育センターの先進的な取り組みを参考にさせていただいて検討しているところでございます。 その中で、先ほど B 委員、A 委員からもお話ありましたが、各校専門的な分野を得意とする学識の先生や民間の企業の方など、そういった方たちを 1 人とか 2 人とかじゃなくて 10 人とかそういった単位で 2 年とか 3 年で契約をして、それで実際に園に出向いていただいたときに報酬をお支払いするという自治体もあります。 他には、巡回のような形で取り組まれている自治体もあります。 さらに、先ほどいろいろな遊びや音楽などそういったお話もいただきましたが、大田区では、子供たちにもっと運動させたいという思いがある先生に対してどのように運動させるかを教える講師を派遣している例もあります。現場の先生たちの意見とかも取り入れながら充実させていきたいと考えております。
田代部会長	いろいろ夢が膨らむご意見がたくさん出てきてまして、この後少しずつ実現していけたらいいと思いながら聞かせていただきました。 たくさんご意見いただきましたけれども、最後に全体の報告を通しまして何か言い足りなかったことや、伝えておきたいというようなことがある委員の先生方いらっしゃいますか。
区立小学校長	幼児教育アドバイザーについて、私の経験ですともう配置されていると感じています。池袋幼稚園と池袋小学校に数日入ってもらって子供たちの様子を全部見ています。 その内容を私は聞いていて、このお子さんはこういうことができるとかここは少し障害があるというところを臨床心理士だと思うのですが、そういうところを親御さんに対しての指導をしてくれています。おそらく小学校全てにも入っていて幼稚園にも多分行ってらっしゃると思います。事実として私の副校長・校長の立場で行ったときに、すごくありがたいです。 情報が先生の情報じゃなくて、臨床心理士の情報っていうのはすごく信頼度が高くそこなのかこっちはどう気をつけなきゃいけないのかというところでは新 1 年生の内容は本当によく教えてくれていると思います。 私立の幼稚園・保育園に対して、改めてこういうことができたかなということは感じました。

A 委員	うちの園ですと今、園内研修にすごく力を入れておりまして、前は主任クラスが今こういう勉強が足りないということを掲げていましたが、中堅や新しい先生たちから今こんなことを悩んでいる、こういう勉強をしたいというのが出てきてそれを 1 年間の園内研修のテーマに掲げています。 ですから、何か研修会があるときにいろいろな幼稚園でどんな研修が今必要とされているのかなど、区の方から聞いていただけると嬉しいと思います。 今私どもが本当に困っているようなことについての研修会がなされるとすごく嬉しいなとは思っております。
田代部会長	研修会を実施した際の振り返り、次にどのようなことを学びたいかなどを皆様から集約して、また次の研修の企画に反映させていくことができれば進んでいくのではないかと思います。 最後に私からも感じたことを 2 点お話しさせていただければと思います。 今回ここで示されている幼児教育センターの役割には、教育委員会だけではなく、保育施設を管轄する部署との連携も大変重要になってくるのではないかと思います。職員体制や研修の実施方法など、ぜひこども家庭部とも連携をして共同の組織にしていっていただきたいと思っております。 それから 2 点目としましては、ここまでのいろいろな体制が整うところまで進んできましたので、ぜひもう一歩進めていただいて、全ての子供たちにとって豊島区としてどのような幼児教育を進めていくのかというガイドラインのような共通プログラムの策定ができればいいのではないかなと思っております。 幼稚園や保育園に通う子供だけではなく、家庭での保育を含めた全ての就学前の子供たちが、対象になると理解しております。 6 月の部会でもお伝えしましたが、家庭での保育や、区内の幼稚園、保育所、こども園を含めた全ての保育教育施設で質の高い統一した幼児教育を展開するためには、全幼児教育施設共有のプログラムが必要になってくると思います。 例えば世田谷区ですとコンパスという指針でまとまっておりますし、中野区であれば就学前教育プログラムというものでまとまっております。 ぜひ、幼児教育センターなどでこども家庭部と連携し、豊島区の幼児教育の指針の策定をご検討いただけたらと思っております それでは本日の議題は以上となります。